2. 「情報」の4つのポイント

現在は、いろいろな情報があふれ、簡単に入手できるようになったと同時に、自分に合う情報、自分の欲しい情報を見つけるのは大変です。

「情報」を取り扱う(情報を探す、情報を集める、情報を理解するなど)際のヒントや注意点を4つご紹介します。

● 情報の新しさ

医療の進歩の中で、情報は常に新しいものが出てきています。
治療に関する情報、医療に関わる制度などは、新しい情報かどうかをよく確認してみましょう。
また、治療に関する情報については、新しい情報であっても、まだ試験段階のものや科学的に証明されていないものもあります。どういう段階で誰(どこ)から発信されている情報なのか注意する必要があります。

● 情報の正確性

受けとる側が慎重に情報を吟味する必要があります。
情報が正確かどうかを最終的に判断するのは、自分自身です。
特に、治療に関してはさまざまな情報があふれ、まちがった情報や誇大広告的なものもあります。
また、主観的な情報は、その人自身の経験に基づいたものであることを理解して判断や対応を行う必要があります。

● 情報の伝達

一般の方と医療専門職では、がん医療に関連した知識の量が異なり、理解のずれが生じやすいといえます。
医師は病気や治療に関してできるだけわかりやすく丁寧に説明したつもりでも、患者さんやご家族は言葉がわからなかったり、意味を取り違えたりすることがあります。
また、未知の情報が大量に入ってくると、情報と情報のつながりがわからなくなることもあります。
このように、正しい情報を伝えたつもりでも受け取り方によって誤解が生じることもあります。

● 客観的情報と主観的情報

情報には、客観的なものと主観的なもの（がん経験者やそのご家族などの経験談や思い）があります。混同しないように気をつけましょう。

情報を知ることで･･･

- 患者さんが自分でどのように（選択する、決める）かの助けになります
- 不安を解消、あるいは軽くすることができます
- 治療への意欲を高め、治療に積極的に参加することをサポートします